

九月九日 夕刊



休日 日曜 祭日
一ヶ月 廿五銭
郵税十五銭 一角二銭
廣告料 一行四〇銭
場所指定廿銭増
発行兼編輯印刷人
牛谷政喜
發行所
福島縣平町大町五
新いわき新聞社

市街地救済として 平町に一萬圓指令

事業の計畫は、大下水道の開鑿、役場前から新川に通ずる。平町では窮民救済の土木事業であるが、右に對しては現役業町村施行の計畫に胡摩澤場前から新川に直南する鐵道、陸橋高麗橋の筋コンクリートの大下水開架け及び町内各支線道設を企てる模様であつて、同路の改修を申請したが許可下水路は暗道圓徑四尺五寸相成り難しとなつたので、悲と稱する大きなもので延長觀してゐたが、同町には市街二百八間會で工費一萬一千地救済として一萬圓の事業圓の設計を立てられたものを指令されるもの、如く非である。

自動車協會平支部で ガソリン値上の對策

來る十二日頃總會を開いて、料金値上か合同經營か。縣自動車協會平支部では來はないが不況の折柄乗合貨車十二日頃總會を開催の等金を上げることは大衆に忠であるが右は最近急騰した實な所以でないで如何にガソリン値上對策の爲めでは業繼續をなし得るか、五ガロン一圓六十錢方法は相當の難問題となつてから二圓二十錢に高騰せるてゐる右に就て消息通の語同油が近く第二次の値上斷る所によれば此際貸切及び行で二圓五十錢位にされるトラックは合同組織を以て模様が、あり斯くては經營難基礎を固め規定料金申受けの營業者が到底立ち行かすを嚴守することが最も良策東都本部に於て奔走中の方であらう會て此の計畫を立てるが、ガソリン値上げが實現しなれては、株の割當と一切平等説れば料金値上げより他に途の株の割當と一切平等説

若松騎兵大佐は 來廿日後に歸郷

平にも歡迎と講演の計畫。騎兵二聯隊の歡迎會の歸途。滿州事變に武勳を輝かした三郡町村長大會に臨んだ赤公主嶺守備騎兵聯隊長若松木知事は午後二時過ぎ同會(晴司)大佐は今回千葉騎兵散會後同町に新設された第一學校教導隊長に榮轉し去る。業取締支所應舎の出來方及び四日東京に歸つたが前任の仙臺騎兵二聯隊では同大佐の凱旋に對し盛大な歡迎會を催される爲め來る二十日隊に向ひ其の後に於て石城郡赤井村の郷家に歸り出征中逝去された母堂の葬儀を営まれる模様であるが平町でも歡迎會を催す筈で尙ほ同大佐の實戰談を請ふ計畫である。

好間村農主催 梨の品評

來る十二日。石城郡好間村農會で、來る十二日村内の梨立毛品評會を開催するので、青山郡農技師及び縣農試石城分場の相師が同村に於ける梨園面積は約二十五町歩で年産額四萬圓に達すると。

知事の平町
町内視察。昨八日、縣知事若松大佐は、平町を視察し、町内各所を巡視し、農産物の品質を調査し、町民の生活状況を視察した。知事は、平町の農業生産が盛んであることを賞賛し、町民の生活が安定していることを喜ばれた。また、町内の衛生状態についても注意を促した。視察は午後一時頃開始され、町内各所を巡り、午後四時頃終了した。

紅葉を 風光に慾むるの清遊

江田信號所に假停車場設置。十月一から一ヶ月半。磐越東線の小川郷と川前驛云々仕組であつて昨年同様に於ける夏井川の溪流にの觀楓客などを調べてゐる。添ふ紅葉葉は同線の開通に鐵道側の見る所では、勝の客を増加してゐるので、十月中旬頃からの毎日曜と云ふのもあるぢやないか。鐵道では今秋の觀楓期を差、月月上旬から同月中旬頃まで、毎日五、六十人。狭み約一ヶ月半最も風光を誇る江田信號所に假停車場を設けて旅客を誘ふ計畫中、自動車團體が約二千人、あるが同地方はまた草類合計三千人あるので、川前驛後歸京せられてからもう起る高崎附近の簇生期には、さう小川郷驛から約一厘半、爲め期日十月一日から十、中心である江田信號所の假、一月十五日頃までと見込、驛は相當の客を誘へ様と云、ある謂は、紅葉も觀たりふのであるが團體には特にすな、きのこも食へたり風光の中、諸般の便宜を與ふると。

失業救済の 道路工事

去月二十日から。平土木監督所の直營で去月二十日から、失業救済として、工事である。縣道三坂線の平町字久保町西踏切から好間村役場前に至る延長三百三十間の土盛工事は、今九日までに毎日八、九十人、

最近の
新聞から(三)
大森勇。廿一日の衆議院本會議で、第... 控へ室の三木氏が、今日... の匡救對策の結果惹き起さ... さる物價騰貴によつて二千... 萬人の消費階級が生活難に... 陥るであらうがその救済に... 對する政府の所見如何と詰... みた若槻總裁の演説の一節

蘭市況

高五〇圓五〇銭。四倉蘭市場昨日の取引は、出荷白蘭三百五十貫で最高五〇圓五〇銭、最低三三圓、均四十五圓八十銭であつた。

俳句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

魚の水飢饉。昨八日午後四時頃平町の新川で魚が、ク、浮き上つたと云ふ大騒ぎがあつたが右は同川上、の炭礦で廢水を流した爲で、

排句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

俳句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

魚の水飢饉。昨八日午後四時頃平町の新川で魚が、ク、浮き上つたと云ふ大騒ぎがあつたが右は同川上、の炭礦で廢水を流した爲で、

俳句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

俳句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

魚の水飢饉。昨八日午後四時頃平町の新川で魚が、ク、浮き上つたと云ふ大騒ぎがあつたが右は同川上、の炭礦で廢水を流した爲で、

俳句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

俳句

そゝる歩記。九月。滿州 楚 男。秋の室。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。病入のあるき出しけり。

魚の水飢饉。昨八日午後四時頃平町の新川で魚が、ク、浮き上つたと云ふ大騒ぎがあつたが右は同川上、の炭礦で廢水を流した爲で、

